

テーマ：景気動向指数（2016年3月）の予測

発表日：2016年4月28日（木）

～足踏み状態が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○一進一退

内閣府から5月11日に公表される2016年3月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差+0.6ポイントと予想する。内訳では、小売業販売額や卸売業販売額などがマイナス寄与だった一方、鉱工業生産指数や生産財出荷指数などがプラス寄与となり、C Iを押し上げたとみられる。

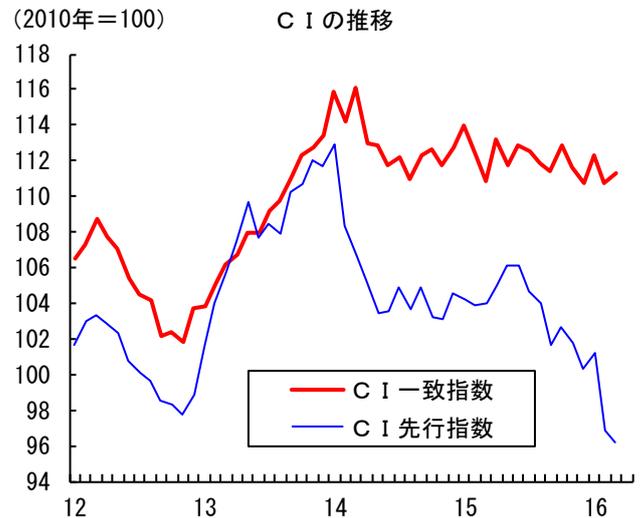
C I一致指数は前月差プラスが見込まれるが、2月に前月差▲1.6ポイントと落ち込んだ反動の域を出ない。C I一致指数は一進一退の足踏み状態にあり、回復感に欠ける状況が続いている。

1-3月期に減産となった鉱工業生産と同様、C I一致指数からも、1-3月期の景気が低迷したことが示唆されている。需要面からみても、個人消費や輸出、設備投資といった主要な需要項目がそろって懸念材料を抱える状況であり、景気は牽引役不在である。先行き不透明感も依然強く、景気の停滞感が解消されるには、まだ時間がかかりそうだ。

また、3月のC I先行指数は前月差▲0.7ポイントを予想する。2月には前月差▲4.4ポイントもの落ち込みをみせていたが、3月は一段と低下する見込みである。C I先行指数は15年6月をピークに低下傾向にあり、3月は2010年2月以来の低水準にまで落ち込むだろう。C I先行指数からも、先行きの景気持ち直しは見えてこない。

○基調判断は「足踏み」維持の見込み

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、前月に続いて「足踏み」が維持される見込みである。「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」である。足元の景気が停滞していることが確認できる。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2016年3月は第一生命経済研究所による予測値